

つっかいぼう通信

第67号

編集 / 特定非営利活動法人障害者自立センターつっかいぼう

〒502 0843 岐阜市早田東町 8丁目 4番 1パセール長良 1F3号

TEL 058- 215- 7374 FAX 058- 296- 5343

発行 / 2010年 5月 10日



2月24日～25日、みんなで一泊旅行をしました。
静岡県の焼津さかなセンターや掛川花鳥園へ行き、楽しい思い出いっぱいの2日間を過ごしましたよ。

作業所の移行と建設について

昨年度末で岐阜市の従来の作業所の制度は廃止され、支援法の日中活動か地域活動支援センター（地活）に移行しなくてはならなくなりました。

小規模も形的には残されていますが報酬単価が大変低くなり継続が困難とされています。

つかいぼうの作業所が移る地活 型の利用者 1人の日額は4500円、支援法の日中活動の就労の単価（6000円弱）と比べると安く、それぞれの場がそれぞれの役割を果たすために存在していると思うのですが、規模が小さいほど日額も安く「文句言うんなら規模



大きくして次に移行してくれい！」って言うか、「小さく留まって市町の予算を食いつぶさないように本法にいつてくれい！」って感じです。でも本法の利用者定員20人以上という数字は大きすぎるのではないかと私は思います。結構な工場です。ちょっと建物を借りて、地域のあちこちに作ろう...といえる大きさではありません、大きさも人数もお金もいります。



私達は10数年前、数人でビルの一階に10坪くらいの一室を借りて自然食品の店の作業所を作りました。車椅子の人が数人以上いる日は、笑い話の様ですが、一番奥にいる人が外に出る時は全員が一度外に出で道をあけなければならない程狭かった・・・、

今の時代だったら到底作業所を立ち上げることが出来なかったでしょう！

横道にそれました。地活は定員10名以上なので、二作業所を「つながり亭・ヴァリエーション」という一つの作業所にし、ヴァリエーションに移りました。最終的な移行先として就労継続支援E型を検討していますがヴァリエーションも施設の設置基準を満たす事は出来ないのので、働く場の建設を検討しています。生活介護も必要なのではという声もあります。

作業所建設のためには、たくさんの資金が必要です。ご協力をお願いいたします。

近々作業所建設についての臨時総会開きます

会員の方は絶対、会員でない方も議決権はありませんがご参加をお願いします。

参加ご希望の方はご連絡ください。

日程が決まり次第ご連絡いたします。

色々な意見お聞かせ下さい。

またこの機会にぜひぜひ会員になってつかいぼうを支えて下さい。

つかいぼう会員の継続と入会のお願い

新しい年度が始まりました。いつもつかいぼうを支えて下さりありがとうございます。今年度も継続よろしくお願い致します。作業所の建設、新制度への移行と幾つかの課題が続きます。その他、障害者が地域で共に生きていくために必要な取り組みを、より地域の方と一緒に進めていきたいと思っております。現在入会されてない方も、どうか新たに会員になって活動を支えて下さい。

年会費

正会員 一口1,000円（できれば二口以上）
議決権があります。

賛助会員 一口1,000円（できれば二口以上）

- ・入会金はありません。
- ・会員には機関紙（不定期発行）をお届けする他、行事や催しなどのご案内をさせていただきます。

振込先 十六銀行岐阜中央支店（店番 123）

預金種別 普通 口座番号 1382822

口座名義 特定非営利活動法人
障害者自立センターつかいぼう
理事長 吉田朱美

・振込用紙に「正会員」「賛助会員」の別をご記入ください。



移動困難者の移動の確保に関する研究会

つかいぼうでは福祉有償運送を行なう団体と共に「移動困難者の移動の確保に関する研究会」を作り活動をしています。

「市民活動支援事業」という岐阜市における地域社会の課題解決を目的に「市民活動団体」が実施する自主的かつ公益的な事業に対して助成が行なわれる事業があり、最長3年受ける事ができます。研究会は20・21年度と助成を受けて活動を重ね、現在3年目を目指しコンペにむけて22年度の活動内容を練っているところです。



20年度は岐阜市内の障害者に対しアンケート調査を行いました。外出回数、行き先、移動手段、外出における問題点、満足度、移動手段や外出そのものについての問題点等をお伺いしました。

締めくくりとして学習会を開きアンケート調査報告と、枚方市の共同配車センターの取り組み、全国移動ネットワークによるアンケート調査の報告を行ないました。

障害者の外出の実態は地方も全国も同じで、外出の大半は家族の手によって支えられ生活に必要な通院はタクシーの利用、外出先は極めて限られ、満足度は低いものでした。外出や移動には、移動手段の問題だけでなく介護者、経済的な負担、バリアフリー等様々な問題が絡み合っている事が明らかになりました。

21年度は 障害当事者や障害者施設の関係者等数人の方から聞き取りを行ない移動や外出に対する生の声をお伺いしました。それ以外に、枚方市共同配車センター訪問、学習会への参加、車椅子でのバス利用のプログラムの同行、福祉有償運送の担い手や福祉タクシー事業者の交流会等を行ないました。

締めくくりとして調査報告と移動に関係する市の行政（障害福祉課、福祉政策課、企画部交通総合政策課）、当事者、障害者施設、福祉有償運送等からそれぞれの現状と課題を出して頂き、課題の共有が少し図れたのではと思いました。

3年目はこれまでの取り組みの継続ですが、もっと深めたい事・知りたい事を学んだり最終年度として何か今後につながる事を模索したい

と思っています。といっても選考はまだなので夢で終わってしまうかも知れませんが選ばれたら、今年と一緒に活動しませんか！日常生活をしていて、行きたいと思った時に行きたい所に気軽にいけるという実感が持てません。そんな事が現実するようがんばりましょう。

実際の車両の運行もですが、持続可能な運行の在り方を検討したり、移動について問題や課題を関係機関に広く伝える事、障害当事者に情報



を提供する事、実際に福祉有償運送を利用して外出の体験をする事・・・やってみたい事がいっぱいあります。と共に障害者だけでなく高齢者、公共交通機関が廃止になり、車を持たない人にとっても共通の課題で、今後ますます重要になっていく問題です。

尚、活動について詳しくお聞きになりたい方はご連絡ください。

??? 接続バスって知ってますか ???

来年度岐阜市に2台導入されます。簡単にいえば(複雑に言っても)バスが2台繋がっているもので、国2分の1の補助で購入するそうです。岐阜駅から岐阜市北部にある岐阜大学と大学病院間の朝のラッシュを解決する目的と聞いています。倍長いので、うまく運行できるのか紙の上で実証実験をしたとか聞いています。

工場の必要な箇所もアリとか。朝のラッシュしか使わんの？単純に4台購入で更なる有効活用はないのか？(運転手さんの人件費の心配？)でも雇用対策になるんでは？今でも岐阜駅に福祉車両の停車がうまくできず問題になっているのに、こんな長いバスちゃんと止まれるのかな、と色々色々思います。どう思いますか。



参加ありがとう！

第22回

大カルタ取り大会

去る3月28日、岐阜市の岐阜メモリアルセンターで恒例の第22回大カルタ取り大会を行いました。当日は岐阜市内外から、実行委員会のメンバーなど大会スタッフを含め約140名の参加があり、競技や抹茶を楽しみながらみんなで交流をしました。

大会のことは読者の皆さんにはすっかりお馴染みかと思いますが、初めてこの大会のことを知った方のために簡単に説明します。

この大カルタ取り大会は、障害のある人とない人の交流と、福祉や障害者問題についてみんなで考えるきっかけづくりを目的に、つかいぼ



スタートラインに整列する選手たち。
緊張の一瞬であります

うをはじめ作業所で働く人や学生でつくるOH！カルタ会という実行委員会が主催し、毎年開催しています。競技には障害のある人もない人も車椅子に乗って参加し、1メートル四方の大きな絵札を車椅子で踏んだら取ったこととなります。使用するカルタは、福祉や社会問題・障害者問題をテーマにした実行委員会のオリジナルです。

毎度のことながらスタッフはどたばた、あたふたの連続でしたが、お陰様で今回も多くの方々にご参加・ご協力をいただき、大会を行うことができました。大会に参加してくださった皆様、大会運営に協力してくださった皆様、そしてご支援をいただきました岐阜市社会福祉事業協力会様、岐阜新聞・岐阜放送様をはじめ後援団体様、誠にありがとうございました。

以下、メールでいただいた感想のいくつかを紹介します

大カルタ取り大会には10数年ぶりに参加しました。

ゲームでは一枚も取れなかったけれど、いつもお世話になっているヘルパーの方はじめ、特別支援学校時代の先輩・同級生・後輩、その他ボランティアさんなどたくさんの人とのふれあいができて楽しかったです。また、来年もぜひ参加したいです。 (須甲 卓馬)

今日はありがとうございました。今年初参加した友達の さんも、車椅子に乗ることが初めての体験だったらしく、とても楽しく活動していました。私も今年もいろんな人と交流できて楽しかったです。

(大橋 那奈子)



初めて参加させて頂きましたが、とても楽しかったですよ。いろんな人との出会いがあり、みんなの楽しそうな笑い声があり、ほんとに楽しいひとときを過ごすことができました。

(匿名希望・女性)

絵札めがけて走るのだぁ～！

日は本当にお疲れさまでした。

今年は2、3年生に任せきりになってしまいましたが、とても頑張ってくれてすごく楽しめました。それにしても22回目というのは本当にすごいことですね。私が今年で22なので私が生まれる前から続いているなんて！！と改めて驚きました。

これも多くの方々がこの大会を大切に思い守っているからなんですね。

今年も本当にお疲れさまでした。

(伊藤 愛)

先日は大カルタ取り大会お疲れさまでした。今年はサークル内の参加者も多く、またみんなのリーダーということもあり、少し不安な部分もありましたが、終わってみればみんな協力でき、より一層仲が深まった気がします。また、茶道部の方とも後日連絡したところ、貴重な体験が出来たと大変喜んでおりました。

(小美浪 隼貴)

有難うございました。
おかげさまで個人として
は久しぶりに会う方々と
交流が出来、普通に大会も
楽しむ事が出来、満足の一
日でした！ 20代前半の若々
しい介助者にとってはいろ
いろな障害当事者と接する
事が出来、いい体験になっ
たようです。
また来年も来たいって言っ
てましたよ。



お昼休みにはマスゲームをしました。
さて、何て文字かな？

MyBossもつかいBoss様となにやらしい話？が出来たみたいで。また、
よろしくお願いします。 (上原 文彦)

その他、「カルタばかりでなく床で出来るカーリングみたいなものもある
みたいですから、そういったのも取り入れることが出来るならもっと楽
しくなるんじゃないでしょうか」というご提案や、「これからもいろい
ろ大変と思いますが、頑張ってください！」という励ましのメー
ルもいただきました。

どうもありがとうございました。



表彰式。おめでとうございます！

吉田朱美の私的感想

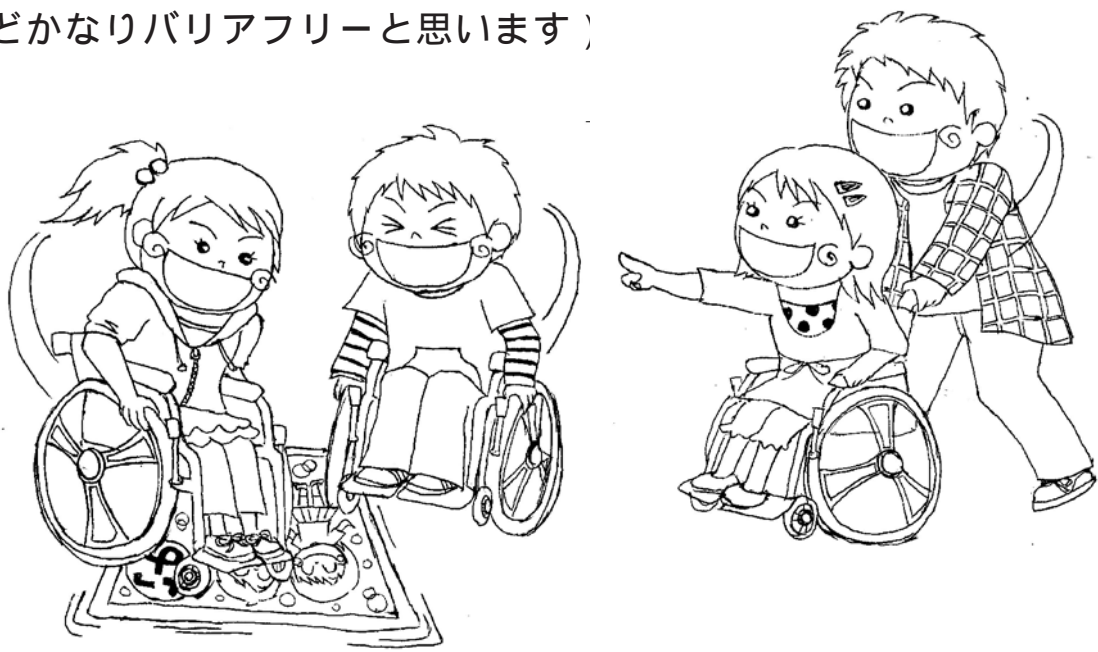
当日だけの参加になってしまっています。開催迄・当日・開催後と皆様のご協力ありがたく心より感謝しています。

第22回目も無事終了して、来年はどうか～と考える間もなく日にちを押さえて帰ってきます。ゲーム自体もっとなんとかならないかなあと思いつつ、いやぁこれしかないかとかこれでいいのだ、でももうぼちぼちやめ時かぁと思いに私的に揺れているここ何年かです。でも、続けていた事を自分が辞めさす事、なくしてしまう怖さ、代わりに何をするのかという不安等々あって私的には続けています。一つの行事をするということは楽ではありません。ならできる限り良い企画、意味のある内容をとった時にカルタ大会は何があるのだろうと思います。

歌を作る、絵札を作る、役割分担をして開催するなど共同作業が多い。

主に障害者の福祉に関する内容の歌と絵を作ることで、障害者の思いや生活を知る、障害者福祉を意識する、共有する、社会にアピールする。…最近アピール性というか障害者からの提起に欠ける気配。だから絵も具体性を欠き、「ハート」とか「つなぐ手」になり、見分けが付きにくくなってしまいう気配・・・。

障害のある人もない人もどんな障害でも車いすを利用してゲームに参加できる。(100パーセントバリアフリーゲームとは言わないけれどもかなりバリアフリーと思います)



抹茶コーナーがある...抹茶をいただく事、ゆったりと個別の交流の機会が持てる。

基本的に全員参加型のゲームを更にお昼休みに行いしつっこく交流の機会を作っている。

ただしちょっとゲーム的に面白さに欠ける。

等々私的手前味噌的評価を記してしまいましたが、「じゃあ、今後どうするう」にはつながりません。
開催を前に参加者を募る、知らない不特定多数のひととの新しい出会いを求めてだけでなく、少し関わりが無くなってきた人、在宅でどうしているだろうと思う人、ちょっと出会ってもっと関わっていきたいと思う人・人・人に声をかける、もっと外に出ようよ、話そうよ、障害者の事忘れないで...、そんな思いでおおっぴらに声をかける事が出来るもっとも良い大切な機会なので続けていることは確かです。
更に悩みは続きます。

今年度の行事のお知らせ

第25回みんなでやろまい障害者・健常者の大交流キャンプ

2010年7月31日(土)～8月1日(日)

今年は再び板取に戻ります。

ヤッホー！

第23回大カルタ取り大会

2011年3月27日(日)

恒例のいつもの場所です。

岐阜メモリアルセンター





近・況・報・告

山内ゆきえ編

つながり亭から突然と消え早くも3年半、今年の7月が来れば4年になってしまう。

まだつかいぼうが長良有明町にあった頃から関わり、徹明町に店があった頃には電動車イスで柳ヶ瀬や新岐阜駅前では、お客を呼びこみながら販売を仲間たちと共にしていたのに年々それも辛くなったり、一緒にやってきた同世代の仲間たちも1人2人とつながり亭を去っていくということや数年後に迫っていた「作業所の移行」のこともありさんざん迷った自分だったが一足お先に移行後のことを考え十数年間いたつながり亭を去って自宅から1分の「みやこ障害者センター」のディに通う毎日である。

みやこ障害者センターには、当センターがまだ出来て間もない頃から週一度通い当時タイプライターから普及しつつあったワープロを習ったり組みひもを習ったりしに長年通った場所でもある。

本郷で自立生活を始め作業所に通所しない水曜、木曜日は「今の身体の機能を維持させるために」と利用していた当センター通いでもあったが毎日通うのは始めてのことだった。自分のいた20数年前はリウマチなどの障害の人やCRの仲間が多くみやこ障害者センターに行けば施設時代のミニ同窓会が出来るのではと思うほどだったセンターも介護保険制度がはじまった頃から一転して脳卒中等で障害者になられた人が増え、根っからの障害のある仲間のパーセントが逆転していた。

自分の身の回りからも「緊張が強くなってきた、首や肩が痛い」など脳性マヒの二次障害の話の聞いたりする。自分自身も緊張が以前より強くなったりしていたとき、隣にあるセンターをふらっと訪れた時十数年前にいた職員に呼び止められ、「以前あった時よりも確実に太って来ているね。家も近くなったことだしセンターに来てマットの上でゴロゴロ運動でもしたら？」と勧められ、ちょうどそのころCRの二次障害につい

て感心を持っていた自分は迷うことなく週に二日隣のみやこ障害者センターに通所することに。

初めの頃は自分がつながり亭に通所しない日に日中の行き場所として通所していた部分もあるが、いまでは土日と水曜日の午後を除き週の大半をみやこ障害者センターで過ごしいわばみやこ障害者センターが現在の「山内の日中活動の場」となり御用の際はみやこにといっても過言ではない。そのみやこで二十数年ぶりに組みひもを組むことを復活させ「山内のオリジナル作品」としてお世話になった人に手作りとしてもらってもらおうかなと思い毎日のほとんどを組みひもについやしている。その組みひもはもらってもらえる人全員に行き渡った後は、つながり亭やヴァリエーションの商品の中にそっと紛れ込ませ一般販売を夢みている山内でありま～す。よろしく。



【編集後記】

一体、何度目の「久々の通信の発行」でしょうか。申し訳ありません。地道に関わりを作っていく事の必要性をひしひしと感じています。障害者が特別な存在ではなく、誰もが同じ権利を持つ人間であると、大切な権利は自分のも人のも同じに大切にしなければいけないと思います。そのために、一つは、通信を作ります。(吉田)